

序章

1. 基本構想の目的

大南地区は、大野川の上流域に位置し、一級河川である大野川及びその支流に沿って既存の集落地が育まれてきました。面積は大分市の約1/4を有しており、その多くを本宮山や天面山などの山地及び丘陵地が占める豊かな自然に恵まれた地域です。

農村商売を中心に水陸交通の要衝として江戸時代から戦前にかけて繁栄した地域が数多くあり、歴史的建造物や伝統的な文化が数多く残っています。昭和40年代以降は、丘陵地に梅が丘・けやき台・高江ニュータウン・つつじヶ丘・判田台・ひばりヶ丘など郊外型の団地が造成され、市街地の広がりを見せる一方で、周辺部では昔からの豊かな自然が今も変わらず残っています。

『大分市都市計画マスタープラン』では、「豊かな地域資源を生かした交流拠点の形成」を大南地区のまちづくりの目標に掲げ、その中でも中判田駅周辺は、大分県立大分南高等学校が近くに立地し、交通結節機能の強化と駅の利便性を生かした計画的な市街地整備による地区拠点の形成を図る「南部地区拠点」として位置付けております。

また、大南地区の主要な駅であるJR中判田駅があり、国道10号と国道10号大分南バイパス（米良バイパス）が接続する中判田駅周辺は、本市南部の交通の要衝でありながらも、中判田駅へのアクセスや駅周辺の土地利用、高校生等の安心安全な経路に課題があります。

現在、国道10号駕野～中判田間の高江拡幅工事や、大南地区スポーツ施設の建設が進められているなど、周辺の状況が大きく変化しており、この変化を契機とした南部地区拠点の形成が求められています。

本市では『大分市まちづくり自治基本条例』において、市民の幸せな暮らしの実現を目指すために市民主体によるまちづくりを行うことを自治の基本理念としています。

都市づくりは、そこに住む人、そこで働く人のためのものです。自らの生活を豊かにする都市づくりは、自らが考え、行動することが重要です。

「中判田駅周辺整備基本構想」（以下、基本構想）は、こうした諸状況を踏まえ、市民や利用者のニーズに的確に対応し、本地区の拠点整備の方向性や方針等を市民、行政、まちづくりの専門家等で共有し、市民が主役となる都市づくりを官民協働で整備の推進を図っていくことを目的として策定するものです。

2. 対象区域：中判田駅周辺

基本構想では、大南地区の交流拠点にふさわしい、南部地区拠点の形成を目指す対象区域として、JR 中判田駅を中心とした、下記の範囲を設定します。

ただし、本基本構想の趣旨を実現するために必要な施策や事業によっては、対象区域外も含めることも検討します。

対象区域：中判田駅周辺

